

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	有限会社アゴラ企画	
施 設 名	こまばアゴラ劇場・アトリエ春風舎	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )		30,389 (千円)
	公 事 演 業	21,289 (千円)
	人 材 養 成 事 業	3,832 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	5,268 (千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	青年団『革命日記』	4月14日～4月30日	『革命日記』【出演者】本田けい、坂倉花奈、他【スタッフ】作・演出：平田オリザ 他	目標値	1,260
		こまばアゴラ劇場		実績値	1,718
2	青年団『日本文学盛衰史』	6月7日～7月9日	『日本文学盛衰史』【出演者】山内健司、志賀廣太郎、他【スタッフ】作・演出：平田オリザ 他	目標値	4,800
		吉祥寺シアター		実績値	5,495
3	青年団『ソウル市民』 『ソウル市民1919』	10月14日～11月11日 11月22日～11月26日	『ソウル市民』『ソウル市民1919』【出演者】山内健司、松田弘子、他【スタッフ】作・演出：平田オリザ 他	目標値	3,040
		こまばアゴラ劇場、他		実績値	3,769
4	平田オリザ・演劇展	2月15日～3月11日	『走りながら眠れ』『コントロールフィサー』他【出演者】能島瑞穂、古屋隆太、他【スタッフ】作・演出：平田オリザ 他	目標値	3,640
		こまばアゴラ劇場		実績値	4,795
5	青年団リンク 公演	4月6日～4月15日 9月13日～9月24日	『きれいごと、なきごと、ねごと、』『上空に光る』【出演者】【スタッフ】青年団リンク キュイ、青年団リンク やしゃご	目標値	1,465
		アトリエ春風舎		実績値	1,066
6	うさぎストライプ 公演	11月29日～12月9日	『空想科学II』【出演者】小瀧万梨子、金澤昭、他【スタッフ】作・演出：大池容子 他	目標値	770
		アトリエ春風舎		実績値	750
7	田上パル 公演	5月25日～6月3日	『Q学』【出演者】江花明里、北村美岬、空花、他【スタッフ】作・演出：田上豊 他	目標値	550
		アトリエ春風舎		実績値	582
8	「これは演劇ではない」 フェスティバル	1月3日～1月20日	『海底で履く靴には紐がない』『幸福な島の誕生』他【出演者】【スタッフ】オフィスマウンテン、ガヤマ气象台、新聞家、他	目標値	2,100
		こまばアゴラ劇場		実績値	2,236
9	こまばアゴラ劇場4～6月 公演	4月3日～6月25日	『秘境温泉名優ストリップ』『未来永劫彼方より』他【出演者】【スタッフ】猫のホル、高橋萌登、他	目標値	1,780
		こまばアゴラ劇場、アトリエ春風舎		実績値	2,040
10	こまばアゴラ劇場7～9月 公演	7月4日～9月24日	『ウィル——歯もなく目もなく何もなし』『文字移植』他【出演者】【スタッフ】Kawai Project、したため、他	目標値	2,105
		こまばアゴラ劇場		実績値	1,891
11	こまばアゴラ劇場1～3月 公演	1月30日～3月17日	『本当は知らない。』『地球ブルース』【出演者】【スタッフ】lal banshees、不思議少年	目標値	770
		こまばアゴラ劇場		実績値	510
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	22,280
				実績値	24,852

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	青年団若手自主企画	6月25日～1月27日	『フリーターの矜持』『クグツ流離譚』他【出演者】【スタッフ】笠島企画、玉城企画 他	目標値	1,750
		アトリエ春風舎		実績値	1,249
2	高校演劇ワークショップ ／高校演劇サミット	8月7日・8日 12月27日～29日	【講師】講師：島田曜蔵、他【参加者】都立世田谷総合高校、盛岡市立高校、精華高校、他【スタッフ】林成彦、他	目標値	730
		こまばアゴラ劇場		実績値	790
3	アトリエ春風舎 照明 ワークショップ	8月11日・12日	「アトリエ春風舎の照明ワークショップ。机をステージに、あと照明もつけたくて、、、夏。」【講師】井坂浩、鐘築隼、小山雄太、他	目標値	20
		アトリエ春風舎		実績値	16
4	こまばアゴラ演出家コン クール	5月11日～13日	【講師】平田オリザ、岩井秀人、佐々木敦、松田正隆、柳美里	目標値	60
		こまばアゴラ劇場		実績値	208
5	こまばアゴラ演劇学校・ 無隣館	6月1日～3月24日	【講師】平田オリザ、大池容子、金澤昭、他	目標値	50
		こまばアゴラ劇場、他		実績値	55
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	2,610
				実績値	2,318

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	駒場幼稚園 こまばクラブ演劇ワークショップ	12月1日～2月23日	【講師】植浦菜保子、小林真梨恵、中谷弥生、村田牧子、村井まどか、他	目標値	20
		駒場幼稚園 ホール		実績値	102
2	福島県被災地域における防災及びふるさと創造学ワークショップ	9月19日～3月6日	【講師】わたなべなおこ、北村耕治、河野悟、小林真梨恵、村田牧子、森内美由紀、窪田壮史、他	目標値	2,000
		福島県立ふたば未来学園高校、他		実績値	1,310
3	海城中学校「演劇を使ったコミュニケーション研修」	4月21日～1月19日	【講師】折原アキラ、河野悟、菊池ゆみこ、村田牧子、村井まどか、ほか	目標値	960
		海城中学校		実績値	984
4	演劇の手法を用いた安全ワークショップ	6月25日～2月18日	【講師】小林真梨恵、中谷弥生、島田曜蔵、長野海、舘そらみ、ほか	目標値	2,000
		札幌市中央区桑園中学校、他		実績値	658
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	4,980
				実績値	3,054

## 【妥当性】

### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

こまばアゴラ劇場が目指す、「『劇場文化』の定着と世界的芸術作品の創造」「海外公演・国際交流事業の推進」「地域ネットワークの構築推進」「人材養成・普及啓発事業の拡充」というミッションに基づき、20事業を実施。内容・予算共にほぼ交付要望書の計画通りに進めることが出来た。唯一、普及啓発事業の事業番号4「演劇の手法を用いた安全ワークショップ」については、30件程度のワークショップ開催を見込んでいたが、実績は4件と大幅に開催数が減少している。これは、これまで長年に渡り同事業を継続的に開催してきたことにより、継続開催を望む各自治体や学校等が、独自に事業を予算化して開催することとなったケースが続出したためである（自治体独自の予算による開催は11件）。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

こまばアゴラ劇場が通常の貸し小屋業務（賃貸料を取って劇団に劇場を貸す日本の従来の劇場システム）をすべて停止し、劇場で行われる全公演を「こまばアゴラ劇場プロデュース」として活動し始めたのが2003年。以後これまでの15年にわたる継続的な活動により、平田オリザ率いる劇団青年団の創造活動は、「新作創作」「レパートリー作品のブラッシュアップ」「地方巡演」「海外公演」といったように、地域から全国、世界へと発信していくサイクルが確立出来ている。これらの事業については観客動員数も当初計画を大きく上回っており、社会のニーズも高いことが窺える。青年団演出部やこまばアゴラ劇場が主催した若手劇団からは近年、全国各地の様々な戯曲賞・演劇賞等の受賞者が毎年のように出ており、「こまばアゴラ劇場公演」「青年団リンク公演」といったクリエーションや「青年団若手自主企画」等の人材養成事業が堅調に機能している。以上からも、助成に値する意義が継続して認められると言える。

## 【有効性】

### 自己評価

目標を達成したか。

公演事業・人材養成事業・普及啓発事業とも、いずれも指標として挙げた目標値を概ね達成するか、全年度水準を維持しており、目標に向けた着実な進捗が見られる。

#### 【主な指標】

##### (公演事業)

- ・ 支援会員数 (実績279人／目標240人)
- ・ 支援会員制度連携劇場数 (実績3劇場／目標3劇場)
- ・ ポストパフォーマンストーク開催回数 (実績54件／目標55件)
- ・ 平日マチネ公演回数 (実績32回／目標30回)
- ・ メールマガジン発信数 (実績11件／目標12件)
- ・ 支援会員特設割引制度による会員数 (実績43名／目標35名)
- ・ 託児サービス対象公演数 (実績2公演／目標2公演)
- ・ 訪日外国人入場者数 (実績224名／目標220名)
- ・ 新聞雑誌等主要メディアへの劇評記事等掲載件数 (実績7件／目標6件)

##### (人材養成事業)

- ・ 青年団若手自主企画公演作品創作者による戯曲賞・演出家コンクール等への応募数

##### (実績6件／目標7件)

- ・ 青年団若手自主企画公演作品創作者による創作企画公演数 (実績4件／目標5件)
- ・ 無隣館在籍者による戯曲賞・演出家コンクール等への応募数の増加 (実績3件／目標

4件)

- ・ ワークショップ事業数の増加 (実績1件／目標2件)
- ・ 高校演劇ワークショップ参加者による創作作品数 (実績10件／目標12件)
- ・ 照明ワークショップ参加者による創作作品数 (実績4件／目標5件)

##### (普及啓発事業)

- ・ 駒場幼稚園「こまばクラブ演劇ワークショップ」での上演来場者 (実績各回20名・22名・19名・21名・20名／目標20名)

- ・ 防災ワークショップ実施件数の増加 (実績6件／目標6件)

- ・ ふるさと創造学ワークショップの参加者数 (実績1,310名／目標960名)

増加 (実績述べ984名／目標980名)

- ・ 演劇の手法を用いた安全ワークショップにおける実施件数の増加 (実績4件／目標30

件)

## 【効率性】

### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

舞台芸術の分野においては、効率性を高めるためにインプットを下げるためには、端的に言うならば「出演者数の少ない演目を制作する」ことが最も効果的と言えるだろう。しかしそれは芸術的な多様性（創造性）が犠牲となるケースもあり、そのバランスを考慮して事業計画を行っている。公演事業番号4「平田オリザ・演劇展」では、少人数の出演者による60分前後の中短編を複数制作、少ないインプットで入場者数を大きく稼ぎ、次年度以降の他地域へのセールス活動にも耐える創作となった。本事業で上演した『走りながら眠れ』は、2019年度に京都公演を予定しており、『コントロールオフィサー』は2020年にジャパンソサエティ主催によるニューヨーク公演が予定されている。また、全事業中最大のインプットで制作した『日本文学盛衰史』は、劇団史上最高レベルの観客動員を数えており、上演後も読売・産経・朝日・毎日新聞がそれぞれ劇評を掲載、いずれも高い評価を得ている。さらには先頃発表された光文文化財団主催による「第22回鶴屋南北戯曲賞」を受賞、十分なアウトプットを得られた。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

公演事業番号4『日本文学盛衰史』は、高橋源一郎氏によるパロディー精神あふれる同名の原作小説を平田オリザ率いる劇団青年団が舞台化ということで、制作発表当初から大きな話題を集め、劇団史上最高レベルの観客動員で幕を閉じた。上演後も読売・産経・朝日・毎日新聞がそれぞれ劇評を掲載、いずれも高い評価を得ている。さらには2018年12月に発表された光文文化財団主催による「第22回鶴屋南北戯曲賞」を受賞し、文句なしの成果を上げたと言える。平田は全国各地で講演会やワークショップを精力的にこなしており、その内容も演劇に特化することなく、コミュニケーションを主題とした企業や医療現場の研修、学校教育、まちづくり等、多方面において示唆に富む提言を行っている。NHKなどのテレビ番組にコメンテーターとして出演する機会も多く、また現在は大阪大学COデザインセンター特任教授、東京藝術大学COI研究推進機構特任教授、四国学院大学客員教授・学長特別補佐、京都文教大学客員教授を歴任し、劇作家にとどまらない活動を展開している。平田は現在さらに、兵庫県但馬地域に構想されている「国際観光芸術専門職大学（仮称）」の学長候補にもなっており、こまばアゴラ劇場を象徴するキーパーソンとして、前期の活動も含め、演劇を媒介して社会全体に影響を与える提言を行い、わが国における演劇芸術の価値をさらに高めていくことが期待される。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

公演事業番号1～4、平田オリザ作・演出による公演により、日本を代表する劇団として、芸術振興の牽引力となるような創作活動を展開した。公演事業番号5～7では、青年団演出部所属演出家による創作で、若い才能のブラッシュアップを図った。特に公演事業番号7「田上パル 公演」で作・演出を担当した田上豊は、2019年より富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督に就任し、今後益々の活躍が期待されている。公演事業番号8～11においては、全国各地の話題のカンパニーや、頭角を現しつつある気鋭の新人らによる創作活動を集め、東京という日本の中心に位置する劇場としての役割を果たすべく、多様なプログラミングを行った。人材養成事業においては、経験やキャリア、演出・出演・スタッフワーク等の部署、受講者の将来の希望、といった様々な要素やニーズを考慮し、舞台芸術のプロフェッショナルを育成するという従来の「演劇養成所」とは一線を画す多角的な事業を展開した。普及啓発事業では、地域と連携したワークショップ事業や、平田オリザが特別講師を務めている「ふたば未来学園高等学校」との連携など、こまばアゴラ劇場が持つネットワークを介した、他施設では見られないユニークな事業を行った。

## 【持続性】

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

人材養成事業として実施した「こまばアゴラ演劇学校・無隣館」では、一期2年のスパンで、これまで三期にわたって開催し、多くの才能を輩出した。一期出身の綾門優季、柳生二千翔がそれぞれ、せんだい短編戯曲賞を受賞、二期出身の山内晶は先頃開催された第18回AAF戯曲賞において大賞を受賞した。また同じく二期の松村翔子は第62回、第63回岸田國士戯曲賞の最終候補に連続でノミネート、惜しくも受賞は逃しているものの、強烈な存在感で注目を集めている。三期においては、青年団の国際共同制作公演への出演が決定するなど、既に頭角を現している者が輩出されている。こうしたことを始め、こまばアゴラ劇場が実施したその他の人材養成事業「青年団若手自主企画」や「こまばアゴラ演出家コンクール」等によって、年間を通じて絶えず新しい才能の発掘と育成に努めた。これらの作家・実演家達はやがて青年団に所属したり、自身で集団を立ち上げたりなどして、公演事業としてこまばアゴラ劇場で上演を行う。このようにして若い才能が劇場を通じて段階的・持続的にステップアップしていくことが出来る環境が整備されている。また創作活動だけではなく、ワークショップ等の普及啓発・アウトリーチ活動についても、内部でファシリテーターの養成・育成を行い、こまばアゴラ劇場が持つネットワークを通じて全国で事業を展開しており、こうした活動が作品の招聘へと繋がるケースも多い。そうした意味においても、こまばアゴラ劇場が実施する公演・人材養成・普及啓発といったそれぞれの事業によって、単発の独立したものではなく、互いに影響を及ぼし合うことで劇場の「機能強化」が推進されている。